

## 平成 30 年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	平成 30 年 11 月 21 日 (水) 13:30～15:40
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	石塚庸子、伊藤真紀子、岩館智子、大衡彩織、尾澤厚子、菊池房江、齊藤真理子、佐々木和哉、千葉陽介、坂東学、藤代伸子、藤村幸雄 (以上 12 名)
4 欠 席 委 員	菅しのぶ、館澤敏子 (以上 2 名)
5 (県側出席者) 生涯学習文化財課	千田貴浩主幹兼生涯学習担当課長、川村信主任主査
6 文化振興事業団	坂本誠一事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷収館長、小平浩副館長、田中芳樹総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、田村敏之主任専門学芸調査員、関成雄主任主査、杉田友視主任

1 開 会	事務局より、委員 14 名のうち 12 名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第 9 条第 2 項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨が報告された。
2 委 員 紹 介	(出席者名簿により自己紹介)
3 職 員 紹 介	(出席者名簿により出席職員を紹介)
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。(挨拶内容省略)
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第 8 条第 2 項の規定により、議長は会長が務めることになっていることから、以後の議事は、石塚会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 説明事項ア・イ 【質疑応答】	「平成 29 年度美術館協議会における主な意見・要望と対応状況について」(資料 1)、 「本協議会における割引制度等に関する主な意見・要望と他館の例について」(資料 2) 事務局から資料 1・2 により説明を行った。(説明内容省略)
◆ 菊池委員	秋田県立近代美術館ではフリーパス券をこの年だけ販売したのか。
◆ 美術館	秋田の担当者はこの年だけの販売とは言っていなかった。企画展の開催していない期間のみ販売しており、年間 1,000 枚ほどの販売数とのことなので、1 日当たり 7～8 枚程度の販売数と思われる。
◆ 藤村委員	岩手県博物館等連絡協議会のパンフレットを見て、まだ行ったことが無い館を訪ねたが知られていない施設が見受けられる。例えば加盟館の中でスタンプラリーを実施して、達成すると次の館の観覧料が無料になるとしたら、他館も含めて集客に繋がるのではないかと思われる。もりとぴあねっとや県内全域を対象とした取り組みを期待したい。
◆ 藤代委員	資料 2 の割引制度に関して、来年度以降実施する予定の割引制度はあるのか。
◆ 美術館	制度設計や県との調整も必要となることから時間を要するが、他館でも多く実施している、例えばリピーター割引を実施させたいと考えている。割引の内容や方法等色々なやり方があるので他館の事例を参考にしながら検討を重ねていきたい。

◆ 藤代委員	夜間延長開館としてナイトミュージアムを開催しているが、企画展開催中に合わせ夏場だけでも週に1回、例えば金曜日とか延長開館できないものなのか。
◆ 美術館	良いアイデアと思うが、再委託職員含む全ての職員の勤務体制を調整する必要もあり、検討を要する取組みと考える。他に、例えば冬場は夕方を過ぎると来館者が減る傾向があるので、開館時間を短くするという事も考えられることから、総合的に判断して検討していきたい。
◆ 石塚会長	プレママ割引やマタニティ割引を導入していただきたい。情操的にとっても良いと思う。
◆ 佐々木委員	以前勤務していた職場で、盛岡中央地区高校教職員の厚生福利事業に携わっており、その事業として県立博物館の観覧と学芸員が先導するバックヤード見学を企画したところ、参加した先生方から好評で、その時の話題を生徒たちに話した結果、後日生徒も博物館に足を運んだそうだ。これに対し今年盛岡南地区の同厚生福利事業が県立美術館だったので来館したが、ただチケットを受け取り自由見学だけだったので、こういう部分も少し考えれば集客に結び付くと思う。また、各高校の美術部の生徒を対象とした観覧料の減免を考えて欲しい。
◆ 美術館	当館でも2カ月に1回バックヤードを歩く「てくてくツアー」を実施している。 学校単位で実施する「教育プログラム」という事業があり、20名位であれば学芸員が同行しながら30分程度の時間でバックヤードも視察することができるので活用して欲しい。
説明事項 ウ	「平成30年度事業実施状況について」(資料3) 事務局から資料3により説明を行った。(説明内容省略)
【質疑応答】	
◆ 大衡委員	「アートデオヤコ」は8回実施で484人の実績があるが、1回当たり何名で実施しているのか。
◆ 美術館	毎月1回当たり10家族定員、約22人で実施しているが、5月5日は「アートデオヤコこどもの日スペシャル」として定員なしで多数の参加者を受付けるので参加人数が伸びている。
◆ 尾澤委員	当校にも届いた「ムナーリからの招待状」はとても良い事業である。生徒の保護者から、親子で観覧してとても良い時間を過ごせたとの報告を受けた。入館者数も大事だが、美術館の役割や価値も大事にしてほしい。また、このパスポートの活用状況が分かれば教えていただきたい。
◆ 美術館	地域限定で約26,000枚を配布し、約780人の生徒と保護者約800人が来館した。 (※当協議会終了後確認したところ、855人の生徒と保護者876人の来館数であった。)
◆ 伊藤委員	次年度も「ムナーリからの招待状」のような事業は実施するのか。
◆ 美術館	企画展の内容等を考慮しながら、今後検討していきたい。
◆ 藤代委員	ブルーノ・ムナーリ展の学芸員講座タイトルに「必然と偶然」と付けられており、一般的な感想として難しそうなタイトルだという声も聞かれ、美 <sup>2</sup> フェス(びびフェス)というタイトルも意味が分かり辛い印象を受けたことから、もう少し一般目線を意識したメッセージの出し方を考えて欲しい。内容は良いのに損をしていると感じてしまう。
◆ 美術館	企画展タイトルも難しいと思われたが、巡回展なので館単独で変更は出来ないという事情もある。タイトルに関してはサブタイトルに分かりやすい表現を用いる等、十分注意したい。

<p>説明事項 エ・オ</p>	<p>「平成 31 年度事業実施計画(案)」(資料 4)「平成 31 年度企画展概要(案)」(資料 5)事務局から資料 4・5 により説明を行った。(説明内容省略)</p>
<p>【質疑応答】</p> <p>◆ 大衡委員</p>	<p>今までも素晴らしい自主企画展示を開催している事から、もう少し自主企画の開催を増やせないのか。企画展で増やせないのなら、せめて常設展で自主企画を増やした方が良い。ついては、その自主企画をもっとアピールしなければ、勿体ないと思う。</p> <p>また、観覧料の割引きの件であるが、比較的近隣の方には効果的だと思うが、県内沿岸部や県南部から時間をかけて来館する方々にとって、割引になるから行くということにはならないと思う。それよりも、ここでしか見られない展覧会の内容を企画し、これをアピールすることが集客に繋がると思う。</p> <p>さらに、今年度の実績を見ると、外部講師や館長の講座等の参加者が少ないように思われるので、集客の工夫をして欲しい。</p>
<p>◆ 美術館</p>	<p>自主企画展については、調査研究に時間を要することや検討事項も多いので、主として常設展示の中で行うことで考えている。また、常設展の広報はチラシ・ポスター等で行っているが、集客力が弱いことから「常設」という言葉の響きが影響しているように思う。他館のように「コレクション展示」というネーミングの方がイメージが良いと考える。</p> <p>割引きについて、今年度から全企画展の前売券をコンビニやプレイガイド各店で購入できるので、遠隔地からの来館者も増えたと感じるが、委員が言われたように内容で集客出来るように頑張りたい。</p> <p>また、館長と学芸員で自主企画の調査研究について話し合いを行っており、時間を要するが、良い自主企画を開催したいと考えている。</p>
<p>◆ 佐々木委員</p>	<p>委員の職に就くまで年 4 回も展示替えを行っていることは知らなかった。もっとマスコミ等で PR した方が良く、学校関係にも美術系や部活動の生徒もいるので PR して欲しい。</p>
<p>◆ 菊池委員</p>	<p>美術館コレクションの中から年代別に作家を取り上げ、作品とその時代をテーマとした常設展特集を企画して欲しい。また、子どもが楽しめる企画もお願いしたい。</p>
<p>◆ 伊藤委員</p>	<p>企画展を見た方がそのまま常設展を見ていく方は半数ぐらいと思われるので、誘導対策として、企画展示室出口に常設展ポスター以外の広報物も追加して、興味を引くような仕掛けをしたり、常設展示を見ない方に直接理由を聞いてみるとか方法はあると思う。</p> <p>また、自主企画展を年間 1, 2 本は開催して欲しい。</p>
<p>◆ 石塚会長</p>	<p>企画展観覧券に付いている常設展観覧券は、その企画展の開催期間内であれば観覧できることを最近知った。</p>
<p>(2) 協議事項</p>	<p>「岩手県立美術館の運営について」事務局から情報提供は特になし</p>
<p>◆ 千葉委員</p>	<p>若い方から美術館についての意見を聞くことはあるのか。</p>
<p>◆ 美術館</p>	<p>昨年度、岩手大学と盛岡大学の美術関連を学んでいる学生に対してアンケート調査を行っており、来館しない理由は「お金が無い、時間が無い、キッカケが無い」ということであつた。総じて、来館して作品を観て楽しむよりも、もっと他に楽しいことが有るので足が向かないことをアンケートからは読み取れた。情報は届いているのかということに関してだが、館の広報として今までは新聞での広報に力を入れていたが、学生は新聞を殆ど読まない反面、テレビやインターネットをよく見る傾向であることから、今後そちらにも注力すべきと考える。</p>

◆ 千葉委員	ある程度来館者数が見込める企画展の時のアンケート内容を工夫して、なぜ常設展を見ないのかとか盛り込んでみたらどうか。
◆ 美術館	アンケートを工夫することや、直接生の声を聴くことも大事だと思うので、検討したい。
◆ 齊藤委員	<p>県立美術館は県民のための美術館だと思うが、距離感を感じてしまう。この理由として、参加型のギャラリーではないということもあり、県民は提供される側という立場である。逆にワークショップやコンサート等は参加型なので、人気が高いと思われる。</p> <p>大学生の卒業制作展や小中学生の作品展等で展示できるようなスペースが欲しいので検討して欲しい。</p> <p>また、「岩手の美術」という視点が弱いように感じるので、岩手の若手作家や子どもたちも含めて取り上げて欲しいので、その役割も担ってもらえるような運営をお願いしたい。</p> <p>県民の芸術に対する精神性や感性を高めていくためにも、参加型の事業を増やして欲しいし、子どもからお年寄りまで集える場所であって欲しいので、検討していただきたい。</p>
◆ 美術館	<p>美術館も開館から 16 年を経過し、当初の基本理念や運営方針を継続してきたが、色々なご意見等をいただいていることから検討すべき事項と認識している。県民が発表できるギャラリー等様々な問題はありますが、少しずつ検討していきたいと考えているので、ご理解いただきたい。</p> <p>補足だが、当初より当館は展覧会や教育普及事業に専念する施設とする旨整備方針が定められており、他施設との役割分担も念頭におき、施設貸出しはしないこととしている等制約がある。しかしながら、委員から提案された件については、少しずつ検討していきたい。</p>
(3) その他	「その他」について (特になし)
(4) 閉会 ◆ 石塚会長	以上をもって本日の協議を終了する。 (終了)